

# 四季と往く蒸気機関車

SLのすべて しんやかずお 新屋和夫写真集



夏

## はじめに

登り勾配にさしかかると、重い荷を引いたS Lは荒々しく煙を吐き、レールを噛み、全身をふるいたたせて力闘する。助けてくれる者は誰もいない。すべてが自分ひとりの孤独な闘いの連続。それはあまりにも哀れなS Lの運命なのかも知れない。だが、いつも自分の力で行動し得ると言う事は、時にはまぶしい位に新鮮であり、うらやましい。

峠を登り切って坂を転がっていく姿は、ひたすら家路を急ぐ駄々子みたい。これほど喜怒哀楽を素直な態度でみせるヤツに、好感と興味を覚えずにはいられない私。

今ではもう日本の地から引退してしまい、走る姿を見る事ができなくなってしまった。そして写真では動く姿を見ることはできないかも知れない。

だが私の生命あるかぎり、甦り、走りつづけるであろう蒸気機関車。S L  
そのS Lの四季折々の姿に目を通してくれる事は、この上ない喜びと感じる次第であります。

著 者

# 夏

---

夏の峠道は暑い。汗があとからあとから容赦なく出て来る。もうかれこれ2時間は歩いているだろうか。いい撮影場所が見つからないのだ。4台の重いカメラが、三脚と共に肩にくい込んで来る。

日影で寝ころんだらさぞ気持ち良いかと思って休んだが、ハエが顔の回りにやかましくまわりついてくるは、アリが身体に登って来るはでイライラして来る。

第一ここで休んでいるひまはないのだ。

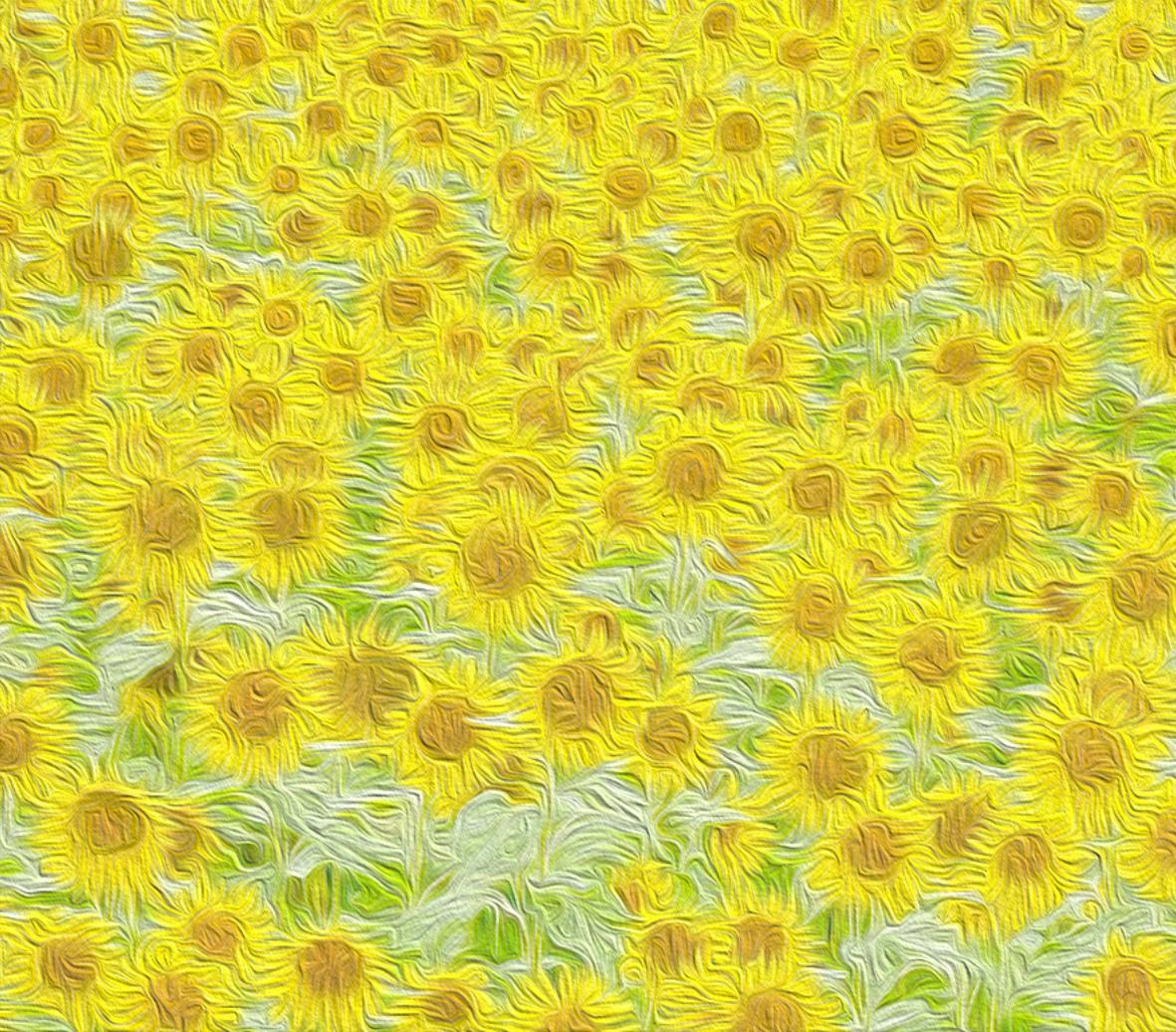
時間がないのだった。あきらめたら終わりだ。何のため

に夜行列車にまで乗ってやって来たのかわからなくなる。

S Lの走る構図を頭に描いて見た。

だが暑さのためか、頭がボーッとしてめまいにも似た症状がおそって来る。しかし時間がない。もうすぐ汽車が来る！ひたすら汗を落として歩く、走る、また歩く。

写真を撮り終えて帰る山道の片すみに、きれいな水が湧いていた。そこには、荷物をなげ出して水にたわむれる姿があった。



夏に行く  
釣り人  
須佐湾  
ひっそりと  
斜里岳とハマナスとSLと  
ポニーは行く  
高原列車  
発車  
D51は行く  
朝日を浴びて  
エゾスカシユリとC58  
山間の町  
薫進  
田園風景  
山あいを縫う  
走る  
真夏の日射しを受けて  
山間の出会い  
峠を目指す  
夕日に映えるC57  
日本海  
C57とフェニックス  
D51が行く  
夕暮時

## 夏に行く

東北 五能線 深浦～広戸

東北地方に海水浴シーズンが始まる頃、この鉄路にも強い日射しが照り始める。



## 釣り人

中国 山陰本線 岡見～鎌手  
釣り人を横目に走り去る山陰のS L。  
D51。平坦線区をゆく D51 には軽い。





須佐湾 中国 山陰本線 須佐～宅田郷  
山々に囲まれた須佐湾をバックに力行するS.L。

## ひっそりと

東北 只見線 会津宮下～早戸  
まるで湖を思わせるような只見川  
数え切れない程のSLマニアが  
通った。そこにはSLを追う男の  
ロマンがあったにちがいない。



## 斜里岳とハマナスとSLと

北海道 釧路本線 北浜～浜小清水  
原生花園に花のかおりが漂う頃。C58に  
とって楽しい日々が続く。



ポニーは行く

北陸 七尾線 西岸、能登中島  
客車の先頭に立つC56には力強さよりもかわいらしさだけが残った。



# 高原列車

東北 小海線 野辺山〜清里  
ひばりの声がさえずる信州の里にドラフト音も負けずと一段と沓え渡る。





発車

九州 吉都線 加久藤〜上江  
都城目指してD51は快走する。

D51は行く

近畿 紀勢本線 亀山<下庄

夏は呼んでいる。SLは走る。力闘するSLに「ガンバレ!」とかけ声をかけた。





## 朝日を浴びて

九州 志布志線 安楽～中安楽  
朝日を浴びてC58はダッシュする。  
そして大隅地方の一日が始まる。

## エゾスカシユリと C58

北海道 釧網本線 北浜～浜小清水

北海道地方に生温かい風が吹く頃になると、  
あちこちで花が咲き始めるのだ。



## 山間の町

中国 山口線 津和野～般平山  
小京都「津和野」の一角に力闘する姿がそこにはあった。





## 霧 進

北海道 函館本線 銀山～然別  
ハドソンと呼ばれるC62には、  
やはり王者の風格があった。

田園風景

九州 吉都線 加久藤〜上江

駅を出たばかりの客車は峠を目指して力闘する。





## 山あいを縫う

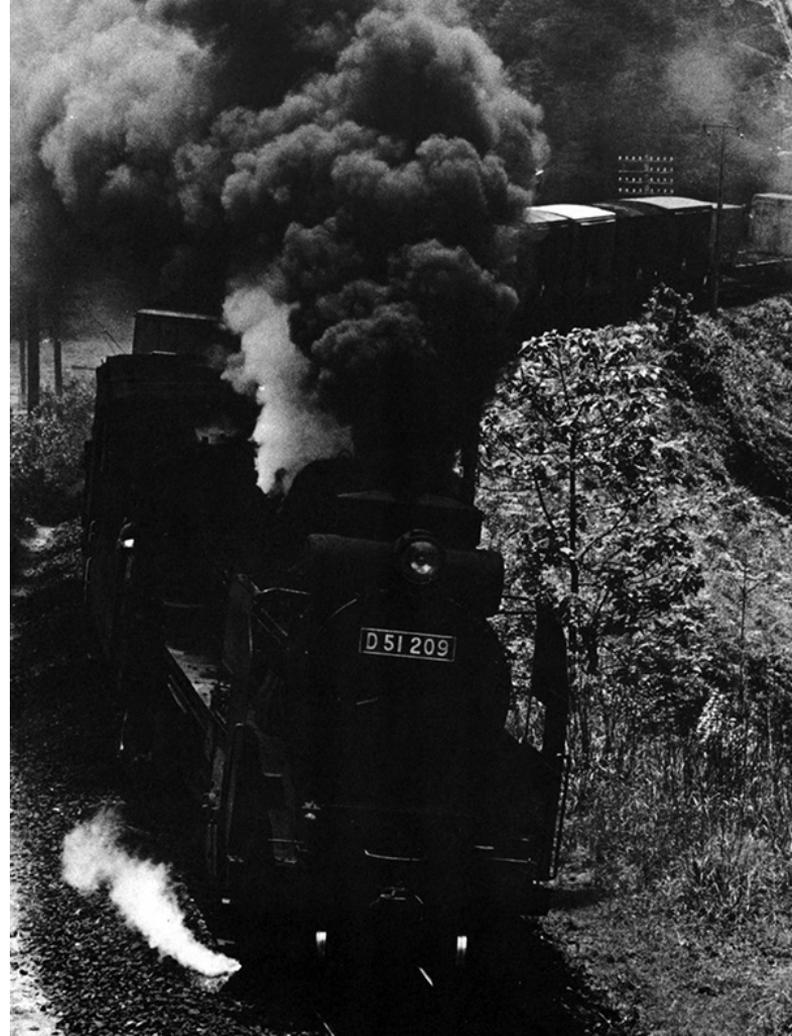
九州 日豊本線 国分～南霧島（信）

国分を発車した列車は上り勾配の連続で霧島越えにいどんで行く。  
この地点はトンネルを出たばかりで、この奥深い山中では今にも  
陽が沈みかけようとしていた。

## 走る

中部 中央西線 田立～南木曾

初夏の木曾路を訪れた。この日は、もう夏そのものを感じる猛暑であり、煙も白く飛びがちであった



真夏の日差しを受けて

近畿 関西本線 加太～中在家（信）

満身の力をこめてD51は走る。力闘する。峠は目前だ！後補機もがんばれ！





山間の出会い

九州 肥薩線 真幸駅にて

客車と混合列車との出会いがそこにはあった。

峠を目指す

九州 肥薩線 真幸駅にて

2両の客車とはいえども連続する急勾配のもとにはドラフト音も途切れがなかった。





夕日に映えるC57

九州 日豊本線 清武～日向彦御

一日の暑い日射しがまもなく終わる。かろやかに！リズムカルに！C57は快走する。



日本海

中国 山陰本線 小田く田儀

山陰海岸横目にD51は走る。波の音も気がつかない。そしてひたすら走る。



## C57とフェニックス

九州 日豊本線 宮崎～南宮崎

大淀川畔に立つC57。背伸びするフェニックス。走る。休む。又走る。



## D51が行く

北海道 函館本線 目名〜上目名

春を待っていた峠道。ゆくぞ！とばかりにD51は走る。

## 夕暮時

中国 山陰本線 五十猛～仁万

夕暮の道、カラスが鳴いた。子供たちが帰ってゆく。D51 は走る。





---

## 四季を往く蒸気機関車・夏編

1977年4月 1日 紙版発行  
2014年9月20日 デジタル版発行

著 者／新屋 和夫  
プロデュース／竹下 博  
デジタル制作／編集工房DEP

© Kazuo Shinya 2014

---